

**商業印刷向けプロダクションプリンター “imagePRESS V1000” を発売  
多様な用紙の高速出力とリモート管理アプリで印刷物の生産効率を向上**

キヤノンは、商業印刷向けカラープロダクションプリンター「imagePRESS（イメージプレス）」の新シリーズ「imagePRESS V シリーズ」の新製品として、“imagePRESS V1000”を2022年6月中旬に発売します。



imagePRESS V1000

パンフレットなどの冊子やチラシ、名刺などの印刷物を取り扱う商業印刷の現場では、多様化する顧客のニーズやインターネット経由での受注増を背景に、印刷物の少量多品種化や短納期化が求められています。新たに「imagePRESS V シリーズ」としてデザインを一新した本体に新開発の定着システムを搭載し、小型化と高い生産性を両立しています。幅広い用紙対応力やリモート印刷管理アプリとの組み合わせにより、印刷業界の少量多品種印刷ビジネスを支援します。

**■ 新開発の定着システムで小型化と高い生産性を両立**

新開発の定着システム「Print on Demand-Surface Rapid Fusing (POD-SURF)」を搭載し、従来比<sup>※1</sup>約42%減のコンパクトな設置面積と、厚紙(400g/m<sup>2</sup>・A4ヨコ)でも毎分100枚の高速出力を実現<sup>※2</sup>します。また、1冊の冊子で厚紙と普通紙が混在するような印刷でも用紙ごとに効率よく定着温度を調整し、温度調整によるダウンタイムを削減<sup>※3</sup>します。厚紙と普通紙で機器を分けずに、1台で高い生産性を維持した連続印刷が可能です。

**■ 幅広い用紙対応力で多種多様な印刷物の作成が1台で可能**

imagePRESSでは初の長尺用紙1,300mmの自動両面印刷を実現<sup>※4</sup>します。これまで手作業で片面ずつ印刷していたPOPなどの両面の印刷物も簡単に作成できます。また、52g/m<sup>2</sup>から400g/m<sup>2</sup>までの用紙の厚さに対応し、チラシや封筒から高級名刺、グリーティングカードなど重厚感のある印刷物まで幅広く作成可能です。

**■ リモート印刷管理アプリとの組み合わせでプリンターの稼働率向上に寄与**

リモート印刷管理アプリ「PRISMAsync Remote Manager」で、印刷現場から離れた場所でも稼働状況や消耗品・用紙の残量をPC上でリアルタイムに確認できます。また、スマホアプリ「PRISMAsync Remote Control」(2022年9月対応開始予定)で、稼働状況を社外からでも簡単に把握できます。リアルタイムに稼働状況を確認できることで、用紙切れなどによる印刷停止の未然防止やプリンターの稼働率向上に寄与し、印刷業者の業務効率化を支援します。

製品名	希望小売価格(税別)	発売日
imagePRESS V1000	1,516万円	2022年6月中旬

※1 「imagePRESS C10010VP」(2020年10月発売)は、設置面積5.04m<sup>2</sup>。新製品は、設置面積2.95m<sup>2</sup>。

※2 「多段デッキE1」(別売り)装着時。

※3 用紙の組み合わせによっては削減できない場合があります。

※4 「imagePRESS C10010VP」では762mmまで自動両面印刷が可能。片面印刷は1,300mmまで対応。

## <主な特長>

### 1. 新開発の定着システムで小型化と高い生産性を両立

- ・新開発の定着システム「POD-SURF」を搭載。従来比約42%減のコンパクトな設置面積と、400g/m<sup>2</sup>の厚紙(A4ヨコ)でも毎分100枚の高速出力を実現。
- ・新定着システムには定着ベルトの温度を均一に制御できる大きな加熱ローラーと、用紙との接触面積が広いワイドニップを採用。定着ベルトの温度を均一に制御し、用紙に熱を効率よく伝達できるようにすることで、1冊の冊子やパンフレットで厚紙と普通紙が混在するような印刷でも用紙ごとに定着温度を切り替える頻度を抑制し、温度調整によるダウンタイムを削減。厚紙と普通紙で機器を分けずに、1台で高い生産性を維持した連続印刷が可能。
- ・本体内に冷却機構を標準搭載。定着直後の用紙が持っている熱を約25%低減し、排紙時の用紙の貼り付きや反り返りを防止。



新開発の定着システム  
「POD-SURF」(イメージ)

### 2. 幅広い用紙対応力で多種多様な印刷物の作成が1台で可能

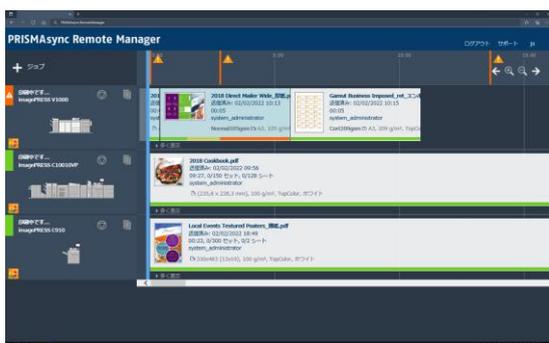
- ・imagePRESSでは初となる1,300mmの長尺用紙の自動両面印刷を実現。店内装飾用のPOPや吊りポスターなど、これまでは手作業で片面ずつ印刷していた両面の印刷物を簡単に手間なく作成可能。
- ・従来の高精度なレジストレーション機構に、新たに2段階のレジストレーション補正機構を追加し、長尺用紙では難しいとされる両面印刷時における高い位置合わせ精度を実現。
- ・出力可能な用紙の厚さは52g/m<sup>2</sup>から400g/m<sup>2</sup>まで対応。チラシなどの薄紙から封筒、さらに高級名刺やグリーティングカードなど重厚感のある印刷物まで幅広く作成可能。
- ・新開発の転写技術により、厚紙印刷時でも高画質と高生産性を両立。ユーザーの用途に合った多種多様な成果物の作成がこの一台で可能。



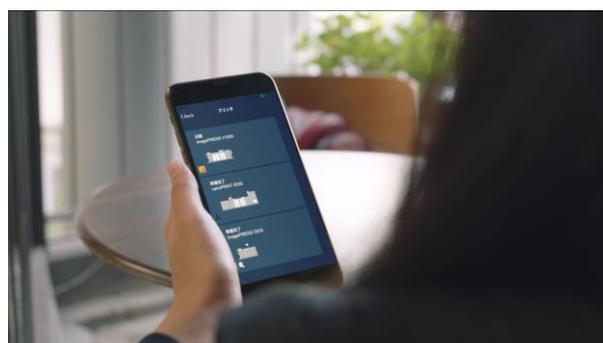
多種多様な印刷物が作成可能(イメージ)

### 3. リモート印刷管理アプリとの組み合わせでプリンターの稼働率向上に寄与

- ・リモート印刷管理アプリ「PRISMAsync Remote Manager」を使用することで、PC上でもプリンターのステータスを一覧で確認。印刷現場から離れた場所でも稼働状況や消耗品、用紙の残量をリアルタイムに把握可能。
- ・スマホアプリ「PRISMAsync Remote Control」(2022年9月対応開始予定)で、手元のモバイル端末にプリンターの稼働状況に関する警告やメッセージを表示。スマホでプリンターの稼働状況を社外からでも簡単に確認可能。
- ・リアルタイムに稼働状況を確認できることで、用紙切れなどのエラーを未然に防止し、ダウンタイムを抑制。プリンターの稼働率向上に寄与し、印刷業者の業務効率化を支援。



「PRISMAsync Remote Manager」の管理画面  
(イメージ)



「PRISMAsync Remote Control」の使用シーン  
(イメージ)

### 4. 使い勝手を考慮した新デザインを採用

- ・本体デザインを一新。ステンレス製のエッジガードはカウンタートップ部から傷を守り、軽量の資料のマグネット掲示が可能。
- ・トップ面はフラットなスペースで、印刷物の確認や仕分けなど作業スペースとして活用可能。
- ・用紙カセットに、用紙の有無がわかるLED表示を採用。



ステンレス製のエッジガード



作業スペースとして活用可能なトップ面

### <カラープロダクションプリンターの市場動向>

近年、ポスターやカタログなどのグラフィックアーツを取り扱う印刷業において、印刷物の少量多品種化や短納期化、オンデマンド印刷やバリエブル印刷への需要がますます高まっています。そのため、高い生産性や高画質、幅広い用紙への対応に加え、正確な画像位置や色安定性などプロダクションプリンターに対する市場の要求はより高まっています。カラープロダクション市場向けカラープリンターの2022年の市場規模は世界市場で約2万台の規模になると予想しています。(キヤノン調べ)

### <主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。